



福岡県立直方特別支援学校

肢体不自由教育部門 高等部 A B 類型

高校生ボランティア・アワード2021

支援する・される側から「支え合い」へ ～私たちにできること

高齢者施設との交流(傾聴ボランティア)

私たちの活動も、3年目を迎えました。もともとは、学校の近くの高齢者福祉施設で傾聴ボランティアをさせていただいていました。昨年度の新型コロナウイルス感染症の大流行により、一時は活動を断念しなければならないのでは…と書いていたのですが、オンラインによる交流が実現しました。そして、活動を通して、**支援する・されるという関係から、支え合う関係へと意識も変わってきました。**

車いすのため、移動や健康面にやや不安のある私たちにとっては、この状況は、むしろ新しい活動の形を作ることができるという点で、ラッキーだったととらえています。リアルにお会いして交流する方が良いに決まっていますが、オンラインでの交流は、移動面での不安もなく、何しろお互いに感染を気にしなくていいので、いつでもできるというよさもあります。

今年度も、SSTによるトレーニングを経て、オンラインによる交流を毎月1回のペースで続けています。回を重ねるごとに楽しさが増えています。コロナが収束したら、必ず会いに行きますね！



1年生は初めての交流に緊張！



仕事を分担して作業を進めます。



直方市観光振興物産協会への寄付

地域を知る、地域に貢献する

「自分たちのため」から「地域のため」に。

将来、福祉的就労を目指している私たちは、そのために必要なことを「作業学習」の中で学んでいます。内容は、社会人として最低限必要な知識・技能、仕事をする上で必要な意欲やスキルなどです。

なかなか一人で外出することもない私たち。実は、私たちが住む地域のことをよく知らないことに気がきました。地域を知ることは、生活をする上で大切なことです。そこで、学校のある直方市のことを調べたことから、少しずつ活動の幅が広がっていきました。

直方市の銘菓「成金饅頭」や100年以上続く老舗の染め物屋さんとのコラボ、また、地域のカフェから譲っていただいたコーヒー豆のかすを利用した消臭剤や、ショップバッグやレジ袋のリサイクルなど、エコ活動にも取り組んでいます。作業学習では商品を作るだけでなく、販売もします。販売活動によるお客さんとのコミュニケーションやお金のやり取りも私たちにとっては学習です。そして、そこで得た売上金を直方市に一部寄付するなど、私たちにできることを地道に続けています。



交流で感じたこと。学んだこと。

今年、新入生1名を迎えて新メンバーでの活動になりました。昨年度に引き続き、北九州市八幡西区の「デイサービスセンターつなぐ」の利用者さんとの交流です。体調などにより、3人がそろわないことが多く、楽しみな反面、心細さと不安な中でのスタートでした。でも、1年生と一緒にSSTに取り組んだり、自己紹介や話題をあらかじめ考えておいたりなど、準備をして臨みました。

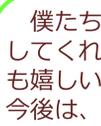
3回の交流で学んだことは、「準備の大切さ」です。当たり前なのですが、準備の有無で充実感や満足感が全然違いました。また、「喜んでもらえることへの喜び」も、利用者さんとの会話の中で感じました。

「つなぐ」の利用者さんやスタッフさんのおかげで、毎月楽しい時間が過ごせています。今後は、高齢者の方だけでなく、外出が難しい方や小さい子どもたちなど、対象を広げていけたらいいなと思っています。



KAEDA(1年)

最初は、とても緊張して時間が経つのがとても遅く感じました。でも、2回目以降は、お互いの作品を紹介し合ったり、そのことで話が盛り上がったりして、とても楽しかったです。オンラインの難しさもありますが、次も楽しみです。



REN(3年)

僕たちとの交流を楽しみにしてくれていることが、とても嬉しいです。今後は、活動の幅を広げるために、さまざまな年齢層の方や、なかなか外出が難しい方との交流もできたらいいなと思っています。2学期も楽しみです。



SEREN(3年)

久しぶりの交流はとても緊張しました。でも、みなさんの元気な姿が見れて、うれしかったです。何を話しようかと考えていたのですが、2回目以降はとても楽しかったです。これからも、利用者みなさんの笑顔に会えるのが楽しみです。

地域のために。環境のために

地域のことを「知る」

住んでいる地域や学校のある地域など、実はよく知らないままです。まずは、身近にどんなコトやモノがあるのかを知ることは、地域社会の一員であるために必要だと感じました。

地域と「つながる」

自分たちが製作した商品を知ってもらい、お店や市役所に置いてもらったり、五日市で販売したりすることを通して、たくさんの方が応援してくれていることを実感しました。そして、私達も、みんなの役に立ちたいと思うようになりました。

地域に「貢献する」

地域のお店に協力してもらったり、私たちの製品を買ってくださった方々へのお礼に、売り上げ金は直方市に一部寄付することにしました。直方市のお祭りなどに役立ててもらえると嬉しいです。

環境問題について「知る」「実践する」

環境問題について学習した際に、ゴミとして捨てられるモノの中には、まだまだ活用できるものがあることを知りました。それも製品にし、販売することで、多くの人に環境について考えてもらうきっかけになったと思います。



商店街イベント五日市での様子



大石本舗の成金饅頭マグネット



コーヒー豆のかすで～ニオイトール



レジ袋のリサイクル～HARUプロジェクト

できることを、コツコツと。

それぞれの社会参加の在り方を実現するために。

私たちの学部には、部活動がありません。昨年度に引き続き、ここで紹介している活動は学校で学習活動として行っていることです。自分で考え、工夫しながら取り組んでいることもあれば、先生方に教えてもらいながら活動していることもあります。はじめは、言われるがままやっていたこともありましたが、でも、「ありがとう」と言われたり、自分たちがしたことが誰かの役に立っていることが分かったりしたとき、とてもやりがいを感じました。今後は、できるだけ自分たちで考えて行動していきたいと思っています。

次の目標は「みんなでやる！」

私たちの仲間には、日常生活のほとんどに介助が必要な人もいます。でも、そうであっても、できることや得意なことはあります。そして、そのことが誰か(何か)の役に立てば、やっぱりうれしいのです。私たち肢体不自由教育部門高等部では、全員がそれぞれの「得意」を生かした活動をしていくことを、先生方と一緒に目指しています。それが、私たちにできる社会参加の在り方だと考えています。



福岡県立直方特別支援学校 肢体不自由教育部門 高等部 A類型2名、B類型6名 計8名

私たちは、障がいや病気などにより、身体に「ちょっとだけ」ハンデがあります。できないこともあるので、必要な支援を得ながら、仲間や先生方と共に夢や目標に向かってそれぞれに必要な学習をしています。日常生活では、進学に向けた勉強や、社会で活躍できるようになるための訓練など、自分に必要な学習にそれぞれが取り組んでいます。今年度は、まずは先輩方が築いてきたことをしっかり受け継いでいきたいと思っています。これからもお互い助け合い、励まし合い、競いながら、笑顔でいられるよう、がんばっていきます！